

## 記者懇談会の記録

日 時	令和 8 年 3 月 26 日（木） 15：30～15：55
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-5
記者数	5 人

### 1 市立総合病院と北海道中央労災病院の統合について

（市長）

岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院とは、来週 1 日に統合を控えておりますが、今月に入って、最終的な患者さんの転院や機器の移設を行っており、移行してくる職員の方に対してはオリエンテーションを実施するなど、円滑な統合に向けた準備を進めています。

統合後の市立総合病院の変更点につきましては、配付資料に沿って、主なポイントを申し上げます。

標榜する診療科は、内科や外科を中心に細分化して、現状の 15 から 22 の診療科に再編します。

病床数は、患者需要を見据えた上で、限られたスペースを有効に活用するため、現在の 474 床から 405 床に 69 床ダウンサイジングします。新病院で予定していた回復期リハビリテーション病棟 38 床を、統合時に前倒して設置し、急性期から回復期にかけてのシームレスな医療を提供する体制を整えたところです。

また、労災病院から移行する主な機能としては、歯科口腔外科を本館地下 1 階に開設するとともに、本館 2 階に心不全・心臓リハビリテーション室を設置します。

外来については、患者数の増加に対応するため、内科系の診察室を 3 室増設するとともに、一部の診療科では午後診療の拡充を行います。

加えて市民健康センターでは、これまで労災病院で受診していた方の受け入れに対応できるように、時間帯別健診コースを新たに設定します。また、胃の内視鏡検査、胃カメラを導入します。

今後の予定ですが、特別なセレモニーは予定しておりませんが、市立総合病院において、4 月 1 日に病院長から辞令交付や訓示を行うこととしており、心不全・心臓リハビリテーションについては、4 月 6 日からの開始を予定しています。

統合後の市立総合病院の概要については、本日、市のホームページで公開しました「広報いわみざわ 4 月号」の中で、フロア図も含めて掲載しておりますので、ぜひご確認いただきたいと思います。

< 質疑応答 >

（北海道新聞）

病院の件に関連しまして、いよいよ統合となりますので、改めてどういった病院にしていきたいですか、南空知圏の医療をどう担っていききたいかということをお伺いできればと思います。

(市長)

これまで市内に急性期を中心とした大きな病院が二つ、市立総合病院と北海道中央労災病院ですが、人口の減少や患者需要の動向もあり、急性期の病院の存続がかなり厳しい状況にあります。そういった中で、統合によって急性期の中心的な役割を担う病院をしっかりと確立していくことが、岩見沢市民だけではなく圏域の住民の皆さんにとっても、まさに必要な病床の確保に繋がると思いますが、また救急体制もしっかりしていくという意味では、やはり避けては通れない課題だということも認識をしていました。

本来統合は新病院の開院と同時に予定していたのですが、コロナ禍後も両病院の経営状況があまり思わしくなく、それで、少しでも体力が残っているうちに統合をして、しっかりと医療のリソースを集約した上で、急性期を中心とした医療を提供することによって、圏域全体の地域医療をしっかりと維持していくということで、いよいよ来週の水曜日に統合ということになります。

今日ちょうど午前中に状況などを見に行ってきたのですが、狭い中で大変ですけれども、当面必要な設備や改修等については行っていますし、先ほど申し上げた回復期のリハビリテーションも、もう既に徐々に使いながら稼働していましたし、口腔外科も十分整った環境の中で診察を開始できるのではないのかなと思っています。

今まで行っていなかった、例えば人間ドックの胃カメラ検査も、労災病院では行っていましたので、それを取り入れるということと、受診者数の増に応じて、健康センターで行う健診も、午後からも受付をして実施をするということと、外来の患者さんが増えることを想定していますので、診察室を増設したこと、内科と外科は特に診療科を細分化したということで、何とか新病院の開院までの間しっかりと地域医療を提供していきたいと考えています。

## **2 岩見沢テロワール・ワインプロジェクト ガバメントクラウドファンディングの開始について**

(市長)

4月から取り組む「岩見沢テロワール・ワインプロジェクト」と、ガバメントクラウドファンディングの開始についてご説明いたします。

まず、このプロジェクトの全体像についてですが、単にワインという特産品の開発に留まるものではないと考えています。ぶどうの栽培から始まって、将来的には観光までを一体としてつなげていく、育てていく、まちづくりへの岩見沢市としての初めての挑戦になると思っています。

資料に沿って申し上げますと、「岩見沢テロワール・ワインプロジェクト」については、岩見沢の強みである「寒暖差の大きい気候」を最大限に活かしたワイン造りのため、【STEP1】ではぶどう畑の農地整備による栽培面積の拡大、【STEP2】では新品種の苗木の導入による安定生産を進めてまいりたいと考えています。また、【STEP3】としては、オリジナルワインの開発や、ワインを核とした「飲食」と「宿泊」を結ぶ周遊モデルを構築することで、岩見沢の魅力と産業を持続的に発展させていきたい、まさに10年後、20年後の岩見沢を支えるようなプロジェクト、そのスモールスタートに当たると考えています。

次に、このプロジェクトを支えるクラウドファンディングの詳細です。資料に記載のとおり、受付期間は、4月15日の午前10時から5月31日まで。目標金額は200万円に設定いたしました。いただいた寄付金は、新たにぶどう畑として活用する土地の整地や排水対策、そして苗木の植栽など、ワインづくりのベースとなる基盤整備に大切に活用させていただきたいと考えています。

また、今回はこのガバメントクラウドファンディング専用の返礼品を用意いたしました。寄付額は12,000円から270,000円まで幅広く設定しています。返礼品には岩見沢ワイン生産者協議会、先日立ち上がりました「葡萄酒の〇岩（まるがん）」が提供する、市販では手に入りにくいワインも含まれるワインセットや、ぶどう畑を肌で感じていただけるワイナリーでのかご作りとピクニック体験などのメニューをそろえています。

最後に、その他になりますが、今回「ふるさとチョイス」を通じたガバメントクラウドファンディングに加えて、プロジェクトに対する一般の寄付や企業版ふるさと納税についても、随時募集しております。これはPRでございます。

岩見沢の大地と空気と水、岩見沢のテロワールが育むワインは、価値ある岩見沢市の財産だと思います。このプロジェクトを通じて、全国の皆さまと共に岩見沢の未来を醸成していきたい、そんな気持ちも持っています。ぜひご支援を多く賜ればと願っているところです。

#### <質疑応答>

(北海道建設新聞)

ステップ1として農地整備を実施するというのですが、こちらの場所は、どこになるのでしょうか。

(市長)

場所としては、今ワイナリーを経営なさっている方、あるいはヴィンヤード経営をなさっている方、そちらの敷地の中で、そこで拡大をしていく、あるいは効率を高めていくという取り組みになると思います。

### **3 その他記者から質問**

#### <質疑応答>

(北海道新聞)

暫定予算が成立すれば11年ぶりになると思うのですが、できるだけ地方に影響のないように考えるとは思いますが、4月から給食費無償化も始まりますし、その暫定予算に関してどういったところに、国には配慮してほしいですか、もし懸念点などあればお願いします。

(市長)

ちょうど報道でも、明日閣議決定をして国会に提出するというので、30日には与野党ともに可決をして予算を成立させることで合意ができたというような報道が流れていました。暫定予算

には地方交付税ですとか、社会保障費関連ですとか、それから高校の無償化の予算も含まれるとも出ていましたが、4月11日には自然成立ということで、11日間の暫定予算ということになるのかと思いますが、そういった点ではそのスケジュールでいくと、それほど大きな影響は出ないのではないかと思います。

継続的な公共工事に対する予算も含まれるという報道もありますし、年度内に成立した予算でも交付金の確定通知が来るのはだいたい4月の中旬ぐらいになりますので、そんなに大きくずれ込みはしないのではないかと考えています。若干の遅れはあるかもしれませんが、大きな影響はこの日程でいくとないのではないかと考えています。

(北海道新聞)

もう一点ですが、公共施設の利用料、手数料も含め、全てではないですが4月1日から見直された料金になると思いますので、改めて引き上げのお考えと、市民へのメッセージがあればお願いします。

(市長)

これまでずっと使用料、手数料は見直しをしないで据え置いたままでした。デフレ経済がずっと続いていたということと、できるだけ市民負担を抑え込んでいきたいと、予算的なものについては別の面でいろいろとカバーしてきたのですが、ただ、ここにきて急激に物価が高騰してきた影響が大きすぎるというのが実情で、年々委託料も含めて単価がどんどん上がってきている状況で、やはり適切な受益者負担を市民の皆さんに公平な負担を求めながら、施設を維持していく、施設をカットしていく、あるいはリメイクをしていく、そういう持続可能な行政サービスの提供のために、今回使用料、手数料等を見直しました。

また予算編成の面ではその前段として枠配当予算なども採用して、自分たちで削れるものは削りながら、将来的な方向性も早めに示しながら編成しましたが、どうしても使用料の負担が避けられないということですので、私ども良好な行政サービスの提供に努めてまいりますので、何かご理解いただきたいと考えています。

ただ、今後もいろいろ見直しをしていかななくてはならない事項も出てまいりますので、その都度丁寧にご説明をして、ご理解をいただきながら進めていきたいと思っています。

(NHK)

イラン情勢の影響で、原油価格並びにプラスチック製品を始めとする石油関連製品が軒並み今上がり始めて、しかもアメリカ、イラン双方の条件にかなり隔たりがあって、先行きの見通しができない状況です。市政への影響がいろいろなところで今後出てくると思うのですが、今のところ、どのようにご覧になっているか、あるいは今後何か対策等をお考えでしょうか。

(市長)

いろいろ影響が出てくると思っておりますが、今の段階で具体的にはなかなか見通せない状況だと思っております。まずは石油関連が上がっていく、あるいは供給不足に陥っていくというようなことはやはり懸念されますし、また北海道はようやく冬が明けますが、電力も含めて厳しい状況は全国的にも続いてくる。そこが全く見通せないということになりますので、そこは市民生活と経済をどう守っていくかという観点で取り組むべき課題だと思っております。具体的に国としてどういう措置を今見込んでいるのか、原油の放出が始まったので、一定程度価格は収まったと思いますが、化学製品の原料になるものが不足するというのは懸念されますので、そこは注意深く見ながら、必要な対策を考えていきたいと思っております。

ただこれまで、昨年の12月からひとり親や低所得者、障がい者などに対する物価高騰対策としての給付金や、水道料の減免、そして1人5,000円の物価高騰対策の交付金を使った支援事業、それから4月以降は景気対策、消費喚起、あるいは生活の質の向上も含めて、第1弾としてプレミアム建設券を発行し、その後にプレミアム商品券の発行を予定しておりますので、そういったところで生活と経済の底支えをしたうえで、あとは状況を注視しながらということになるかと思っております。

イラン情勢に伴っての影響を地方自治体の予算で賄うというのはなかなか厳しい話だと思っておりますので、今後どのような方針が示されるのか注視しながらだと思っております。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)